



宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】



■策定年月：平成23年3月 ■人口：6,362人 ■面積：627 km²
■担当課：伊仙町教育委員会社会教育課（平成30年3月現在）
※以上伊仙町情報

奄美の歴史・文化を象徴する関連文化財群を「奄美遺産」と定義し、その適切な保存・活用を目指す。伊仙町の歴史文化基本構想とは、国内有数の亜熱帯の森とサンゴ礁環境のもとに営まれた人々の暮らしや文化に注目し、いわゆる文化財の枠にとらわれない人々が畏れ、敬い、守り、伝えたいモノ、事柄、事象などをまるごと大切に作る取り組みである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

琉球列島、奄美群島、亜熱帯の森と海、
窯業生産、奄美遺産（歴史遺産・生活遺産・集落遺産）

課題

- ・専門的担当者が不在
- ・都市設計や観光部局との連携不足
- ・取組にあたっての、住民の合意

保存活用方針

- ・奄美遺産の掘り起し
- ・奄美遺産の本質的価値を見極める
- ・世界自然遺産登録への取組と足並みをそろえる
- ・奄美群島全域で取り組む

保存活用のための取り組み

遺産の掘り起し

文化遺産を活かした地域活性化事業（文化庁補助事業）を活用し、平成22年から平成26年度にかけて伊仙町内における奄美遺産の調査を進め、調査報告書を刊行した。また、調査成果を広く普及するため、奄美遺産調査成果報告会を開催した。



わが故郷の文化財探訪

伊仙町中央公民館主催の公民館講座にて、島内の文化財めぐりを毎年開催している。リピーターも多く、好評を得ている。また探訪地は文化財にこだわらず、黒糖工場見学なども行なっており、奄美遺産の考え方や理念についても説明している。



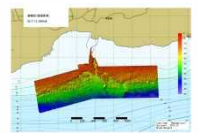
面縄貝塚史跡指定記念シンポジウムの開催

面縄貝塚（縄文時代～中世）の史跡指定を記念したシンポジウムを開催（面縄集落は、伊仙町における歴史文化保存活用区域の筆頭候補となっており、本遺跡は国史跡として関連文化財群の核心をなすことが確実視される）。



島内近海域と沿岸部の調査

伊仙町には中世の窯業生産跡『徳之島カムイヤキ陶器窯跡（国史跡）』が所在するため、これらの運搬と関わる積出港の探索を進め、海底地形測量図を作成した。面縄集落の近海域では、近世・近代の鉄錨が複数発見されており、カムイヤキ時代にさかのぼる港が発見される可能性が見込まれる。



◆ 関連文化財群



伊仙町には国立公園指定6区域、国指定史跡2件、国指定天然記念物1件、国登録有形文化財1件、県指定文化財2件、町指定文化財35件が所在している。

これらを中心に据えると、関連文化財群は以下の10ストーリーによってまとめられる。伊仙町においては、特有の自然環境と調和した固有の文化が展開し、琉球と薩摩に両属した複雑な歴史的経緯を物語る独自の文化が醸成された点に注目して関連文化財が選定されている。

ストーリー

- ①島の成り立ちから現代にいたる歴史をつたえる遺産
- ②シマンチュの精神を伝える「ケンムン（小妖怪）伝承
- ③豊かな自然の恵みに育まれた島の生業
- ④多様な言語の存在を今に残す島口
- ⑤島の暮らし・心を伝える唄と踊り
- ⑥自然に寄り添い、支えられたシマの行事
- ⑦暮らしの中に残された「あそび」
- ⑧島から生み出された芸術・文学
- ⑨島の暮らしを彩る島料理
- ⑩それぞれが個性を放つ集落遺産

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

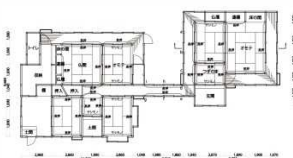
① トレイルコースの設定

所管する文化財情報の蓄積と積極的発信によって、島内観光の利便性を高めることを目的としたトレイルコースの設定が検討されることとなった。庁舎内の他部局連携のきっかけともなり、官民一体となって文化財を活かしたまちづくりを推進する雰囲気が高まる効果が期待される。



② 古民家再生等による地域活性化

伊仙町がすすめる空き家対策事業として、古民家の再生と宿泊地利用が計画されている。策定した歴史文化基本構想に基づいた修繕方法を提案し、文化財としては未指定であっても、文化財としての適切な取り扱いと伝統的建築物の積極的な活用の両立が期待される。また歴史文化基本構想の策定は、観光部局、建設業者との連携強化に寄与することが見込まれる。



③ 日本遺産登録への展開

歴史文化基本構想を策定した奄美市・伊仙町・宇検村が中心となって、奄美群島全市町村が連携したシリアル型の日本遺産登録を呼びかけており、現在登録に向けた担当者協議を行っている。本構想の策定が、広域的に取り組む文化財の保護と活用に向けた指針となる効果が見込まれる。

